

さつき幼稚園

正会員 工藤和美君
正会員 堀場弘君
正会員 岡村仁君
正会員 高間三郎君

福岡市の人口は2007年の統計現在で136万人(住民基本台帳による)だが、市民の平均年齢は38.6歳(平成12年国政調査)であり、全国平均(44歳)と比較しても若い居住者人口が際立っている。このところ、年平均1万人レベルで人口増が続いており、2015年までには145万人(平成14年4月予測)に達すると予測されている。

さつき幼稚園は市営地下鉄で市の中心部である天神から20分の野芥駅が最寄り駅である。駅から幼稚園までは宅地化されていて、幼稚園は宅地の端部の傾斜地に位置している(もともと住宅地のエッジに位置していたのだが、周囲が宅地化されたことと、より広い用地を確保するために、さらに丘陵地の上部にある現在の敷地に移転し建替えたとのこと)。

斜面地の上部にある園地のグラウンドの端からは福岡市中心部およびその郊外の現況を一望の下にすることができるが、人口減がかまびすしく議論されるわが国の中でそれとはあたかも無縁のように、着々と郊外化が進行している様子がうかがえる。この幼稚園にしても園児300人以上という大規模幼稚園なのである。

敷地全体は大きくは二つのレベルに造成されているが、幼稚園の園舎は敷地の広さと土地の傾斜を生かしてそれぞれのレベルに木造平屋建てで計画されている。二つのレベルの中央に位置する管理棟のみが2階建てで、管理棟の大階段とブリッジが両レベルを接続している。

園舎は木製格子梁(格子ピッチ約600mm、梁背約400mm、梁下部まで約2,700mm)によって屋根架構がなされ、この架構が室内の保育室とその周囲の半屋外空間(外部廊下)に連続している。保育室内部は高さ1mで腰壁や収納が配され、その高さが子供たちに落ち着いた室内環境を担保しているが、それと同時に、その上部の大きなガラス面は視覚的な開放感のほかにも保育室間の連続性や透明性を確保していて、保育士たちが園児を見守り、互いのコミュニケーションをとるにも貢献している。保育室に入ると架構のそこかしこにハイサイドライトが設置されている。ハイサイドライトは中間期に保育室に光と通風をもたらす装置となっており、保育室周囲に連続する開口部と併せて室内は気持ちのよい光環境となっている。天井高さ、外部廊下の広さ、保育室のスケールなどの建物のスケールが集団で生活する子供たちによくフィットしたためか、子供たちがのびのびと活動しているのが印象に残った。人体に対して、木のもっている、やさしさ、やわらかさも子供たちの施設としては適切だったろう。このように、子供の生活空間のあり方を正面から捉え、子供たちの目線にたって、子供たちの居場所を巧みに作りあげたこと、また木材のもつ可能性をおおらかに表現しえたことはこの建物の大きな魅力となっている。

よって、ここに作品選奨を贈るものである。